

事故事例に学ぶ... 4

信号機のある交差点での出合頭の衝突

赤信号を見落とした衝突事故

事故の概要

発生状況

日時:平成10年12月某日 午前6時10分

天候:曇り

発生場所:神奈川県下の県道

道路状況:道路幅6m、片側一車線の県道と、
4.5m 市道が交差する交差点

事故の当事者

A(4tトラック運転):年齢27歳・男性
運転歴7年・事故歴あり

B(乗用車運転):年齢42歳・男性
運転歴21年・事故歴なし

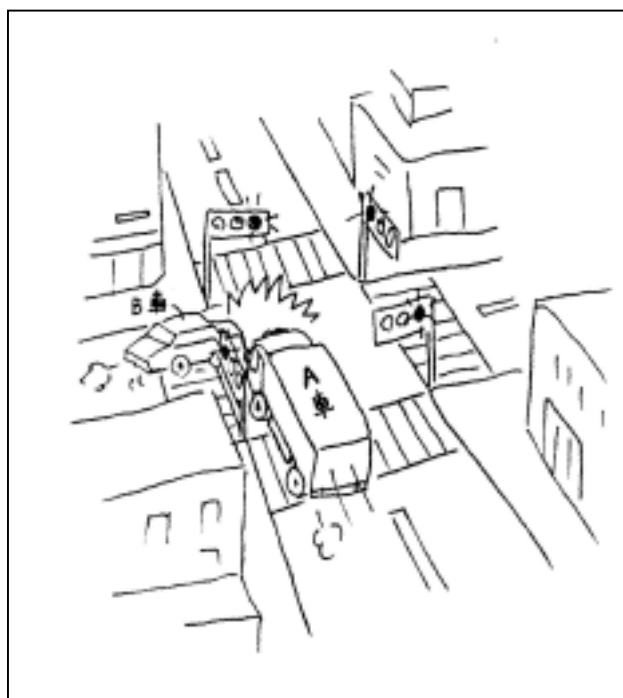
被害状況

A:人身なし

物損(前部フェンダー・バンパー破損)

B:人身(全身打撲~全治2か月)

物損(右側面大破)



事故状況

事故当日Aは遅刻しそうになったため、朝食をとらずに家を出た。朝5時頃、配送所での荷物の積み込みが終わり目的地へ出発した。

「今日はいつもより運転距離が長い」運転を始めて1時間くらい経過した頃空腹を覚え、「途中で朝食をとうか?」「何を食べようか?」などと考えながら運転をしていた。

早朝ということでまだ道路は閑散としていたので、少し飛ばし気味にいつもの走り慣れた道を走行していた。

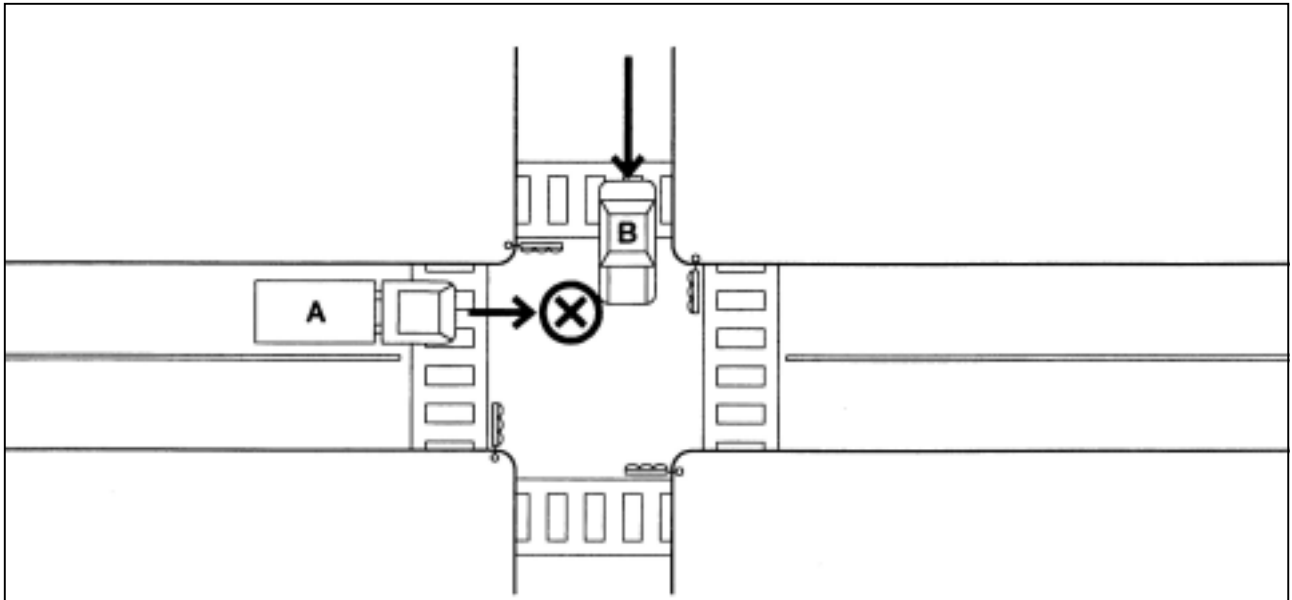
食事のことを考えていたせい、うっかり前方の交差点の信号が赤に変わっていたのに気付くのが遅れ、ブレーキをかける間もなく交差点に進入してしまい、左方向から走行してきた乗用車と出合頭に衝突した。

事故の原因と防止策

朝食は必ずとる

Aは、「朝御飯を食べなくても大丈夫だろう」と思い家を出ました。しかし朝食を抜いたことにより体が完全に目覚めておらず、集中力に欠け、周囲の交通状況に適応した運転ができなくなっていました。そのため、最も危険度が高い交差点に進入するにあたり、注意力を高めなくてはならないにもかかわらず、考え事をしてしまい、交差点および信号機などの情報を見落とす結果となりました。

朝食は必ずとるようにしてください。朝食を抜くと体



力の低下を招くだけでなく、朝の目覚めを遅らせ、思考力・判断力を鈍らせます。

運転に対する慣れは禁物

走り慣れた道路で緊張感が薄れ、気が緩んでしまったこともAの赤信号の見落としにつながっています。

運転中は、たとえ慣れた道路でも適度な緊張を保ち、先々の交通状況の変化をすばやく読み取ることが必要です。また、運転は慣れるに従い、自己中心的になり、スピードを出すようになりますが、そのスピードが「うっかり」を「事故」へと運びます。免許証をとりたての頃の「安全運転をしよう」という初心を思い起こし、「無事故」を目指してハンドルを握ってください。

危険予測の習慣を身に付ける

誰もが、いつのまにか自分の運転を過信するようになります。そして、「今まで事故を起こしたことがないから」「交通が閑散だから」「通り慣れた道路だから」などの油断につながり事故を起こします。

ら」などの油断につながり事故を起こします。

過信や油断を捨て、「脇道から車は飛び出てこないだろう」(だろ運転)から、「もしかしたら車が飛び出てくるかもしれない」(かもしれない運転)へと気持ちを切替え、道路上の危険を予測する習慣を身に付けていくことが大切です。

この事例にみるように、不摂生な日常生活は、運転にも悪影響を及ぼします。まず、睡眠や食事など生活習慣に注意し、体調を整えることが大切です。また、慣れた道路であっても、適度な緊張感と心のゆとりを持ち、刻々と変化する交通の流れに合った運転をすることで、この種の事故は未然に防げるものです。

プロドライバーとしての誇りと自覚を持ち、周囲に対する思いやりと優しさを持った運転で、無事故を心がけましょう。